

岡山県感染症週報 2026年第24週 (6月8日～6月14日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026年 第24週 (6/8～6/14) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第24週届出分)

第23週	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名 (40代 男)
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	1名 (70代 男)
		梅毒	1名 (10代 女)
第24週	2類感染症	結核	3名 (20代 男1、30代 女1、70代 男1)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5名 (O157:10代 男1、20代 男2、60代 女1、70代 女1)
	4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1名 (70代 女)
		日本紅斑熱	1名 (80代 女)
	5類感染症	水痘 (入院例)	1名 (80代 男)
		百日咳	3名 (20代 男1・女1、50代 男1)

こまめな手洗い!



©岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点50、小児科定点28、眼科定点12、STD 定点18、基幹定点5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で25名 (定点あたり0.50人) の報告がありました。
- 急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で2,298名 (定点あたり45.96人) の報告がありました。

【第25週 速報】

- 日本紅斑熱 2名 (70代 男1、80代 女1) の発生がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で25名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり0.12 → 0.50人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で2,298名の報告があり、前週から増加しました。 (定点あたり41.60 → 45.96人)。詳しくは、「[★急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2026年第24週に5名の報告があり、2026年の累計報告数は32名となりました (2025年の同時期:17名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』](#) をご覧ください。
4. [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) は2026年第24週に1名の報告がありました。[日本紅斑熱](#) は、2026年第24週に1名の報告があり、2026年の累計報告数は3名となりました (2025年の同時期:5名)。ダニが媒介する感染症として、他に[つつが虫病](#)などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」](#) をご覧ください。
5. [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#) は、県全体で82名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり2.57 → 2.93人)。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
6. [手足口病](#) は、県全体で135名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり2.79 → 4.82人)。地域別では、備中地域 (10.67人)、真庭地域 (8.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。
7. [ヘルパンギーナ](#) は、県全体で32名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり0.89 → 1.14人)。地域別では、備中地域 (3.67人)、備前地域 (2.50人)、真庭地域 (2.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年7～8月頃が流行のピークとなります。病気の特徴、予防法は[『ヘルパンギーナ』 \(国立健康危機管理研究機構\)](#) をご覧ください。

流行の推移

疾病名	定点あたり報告数		推移	疾病名	定点あたり報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.10	0.26	↗	突発性発しん	0.71	0.18	↘
COVID-19	0.12	0.50	↗	ヘルパンギーナ	0.89	1.14	↗
急性呼吸器感染症(ARI)	41.60	45.96	↗	流行性耳下腺炎	0.00	0.04	↗
RSウイルス感染症	0.39	0.07	↘	急性出血性結膜炎	0.08	0.00	↘
咽頭結膜熱	0.50	0.21	↘	流行性角結膜炎	0.25	0.17	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.57	2.93	↗	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	5.68	4.00	↘	無菌性髄膜炎	0.20	0.00	↘
水痘	0.54	0.46	↘	マイコプラズマ肺炎	0.20	0.00	↘
手足口病	2.79	4.82	↗	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.00	0.11	↗	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↘ : 減少 増加・減少 : 前週比10%以上の増減

ダニが媒介する感染症に注意しましょう!

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)*、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [つつが虫病 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立健康危機管理研究機構\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀

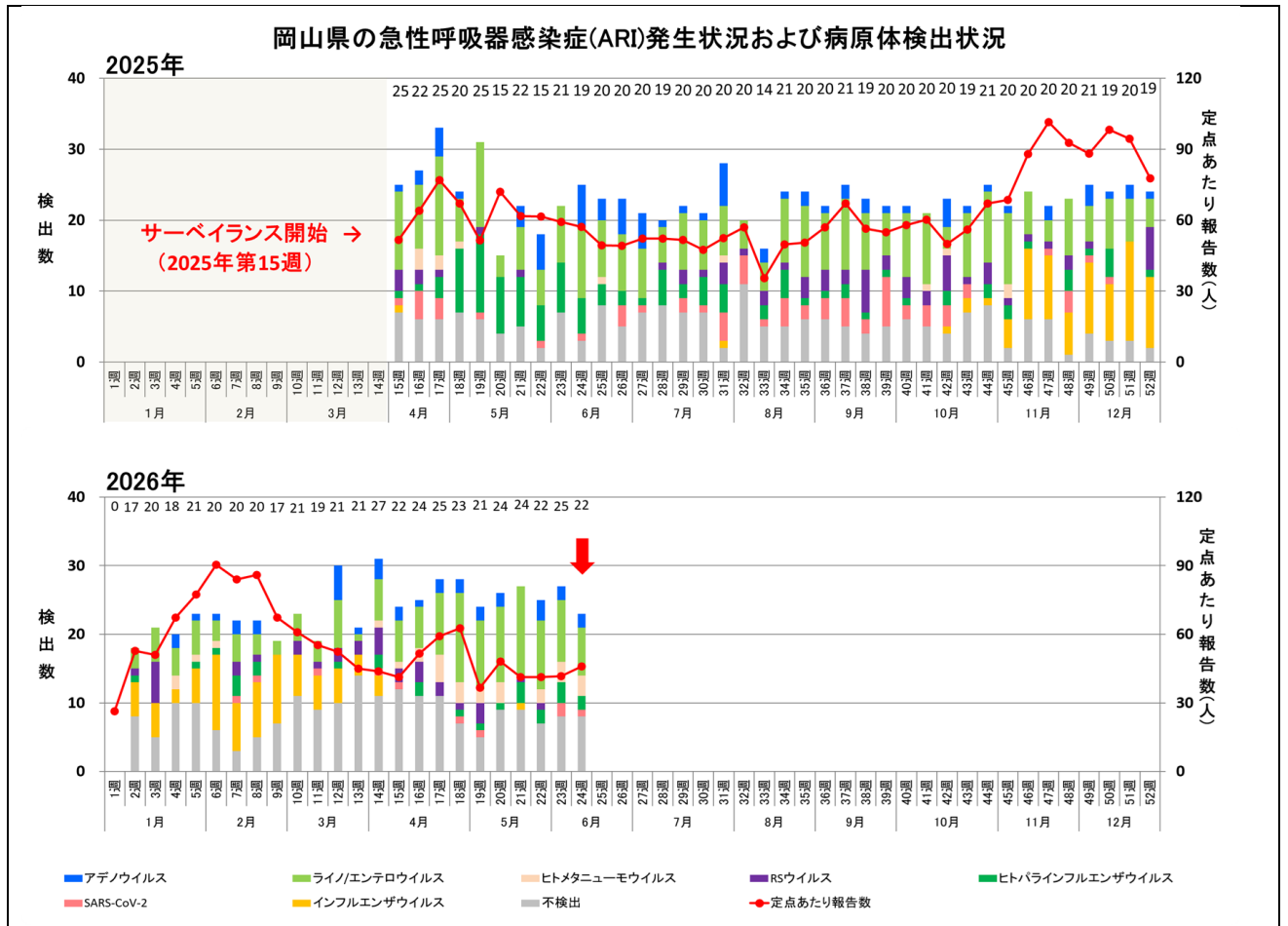


ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第24週（6/8～6/14））



- ※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
- ※1検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
- ※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
- ※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
- ※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,298 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 41.60 → 45.96 人）。地域別では、備中地域（83.00 人）、岡山市（54.33 人）、備前地域（47.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

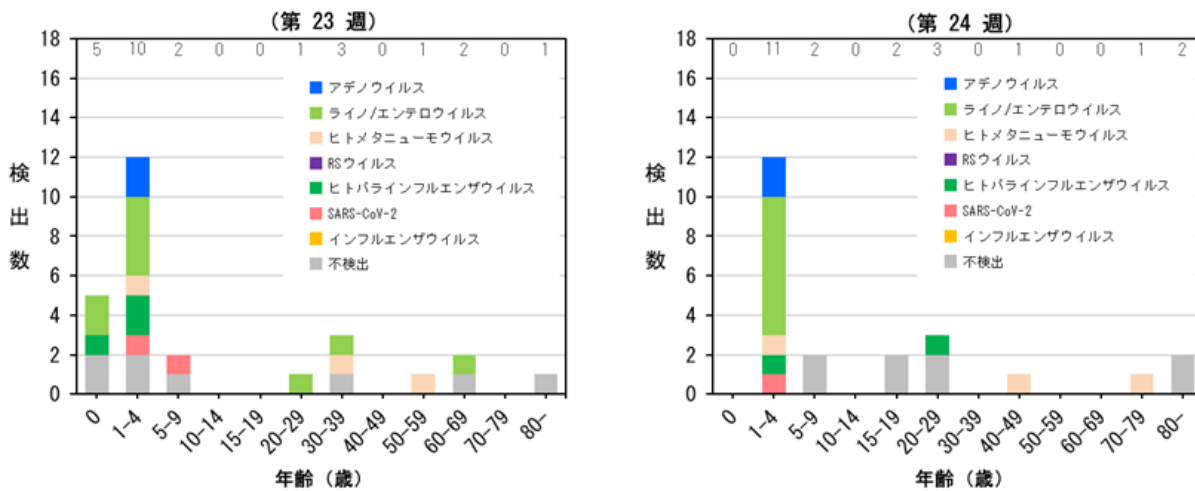
2026 年第 23 週および第 24 週に採取された検体から検出された病原体は 34 株でした（詳細は次表参照）。

【第23週および第24週 岡山県環境保健センターにおける病原体検出状況】

	第23週	第24週	計*
検体数(うち不検出数)	25(8)	22(8)	47(16)
インフルエンザウイルス	0	0	0
SARS-CoV-2	2	1	3
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	2	5
RSウイルス	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	3	3	6
ライノ/エンテロウイルス	9	7	16
アデノウイルス	2	2	4
計	19	15	34

* 重複あり

○年齢別病原体検出状況



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
 ※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
 ※グラフ上部の数字は各年齢別の検体数を示しています。
 ※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点2、小児科定点3）

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）](#)

今週の注目感染症①

★A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

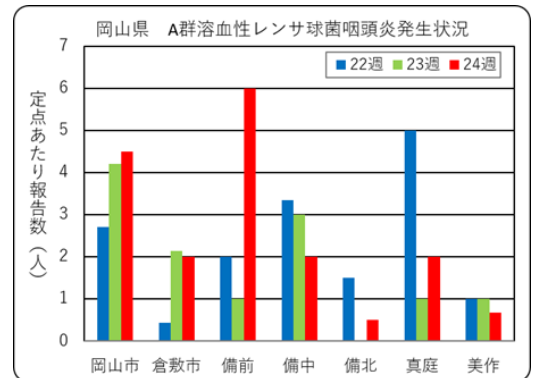
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による呼吸器感染症で、主な感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染です。そのため、家庭や、学校・保育施設などでの感染も多いとされています。

潜伏期は2～5日で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。咽頭炎、扁桃炎のほか、口腔内に点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。通常、3～5日以内に解熱し、主症状は1週間以内に消失する予後良好の疾患ですが、点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現する猩紅熱と言われる全身症状を示すことがあります。その他、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすこともあります。

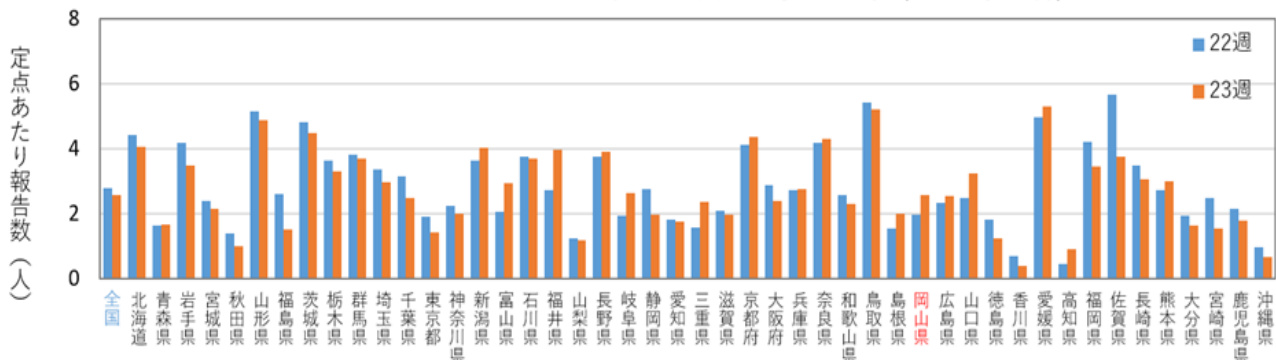
●発生状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の全国の第23週（6/1～6/7）の発生状況は、定点あたり報告数が2.58人であり、前週（2.78人）とほぼ同数でした。都道府県別では愛媛県（5.29人）、鳥取県（5.21人）、山形県（4.88人）の順で多くなっています。

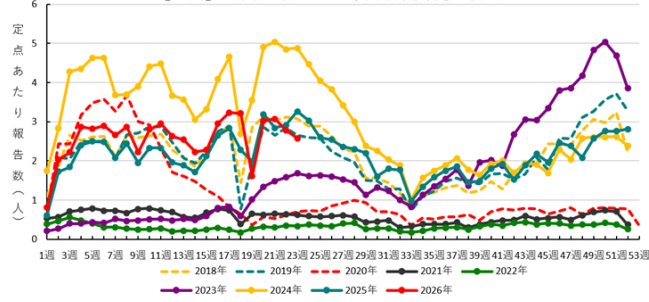
岡山県においては4月以降、定点あたり報告数が例年より多い傾向が続いています。第24週（6/8～6/14）は県全体で82名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり2.57→2.93人）。地域別では備前地域（6.00人）、岡山市（4.50人）の順で多くなっています。



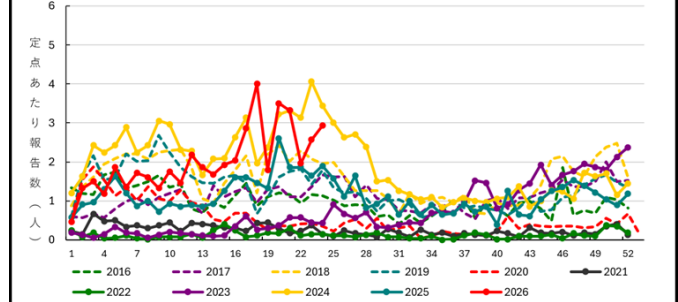
2026年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況（都道府県別）



【全国】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



【岡山県】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



●治療・予防方法

治療にはペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合はマクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。発熱、咽頭痛などの症状がみられる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（厚生労働省）](#)

[A 群溶血性レンサ球菌感染症（国立健康危機管理研究機構）](#)

【関連情報】

★劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主に A 群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症です。突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行しますが、劇症型へと進行する理由はいまだ不明です。年齢別にみると 30 代以上の年代で多く発症しています。

全国では第 23 週に 9 名が報告され、2026 年の累計は 622 名となっています（2026 年 6 月 10 日時点）。

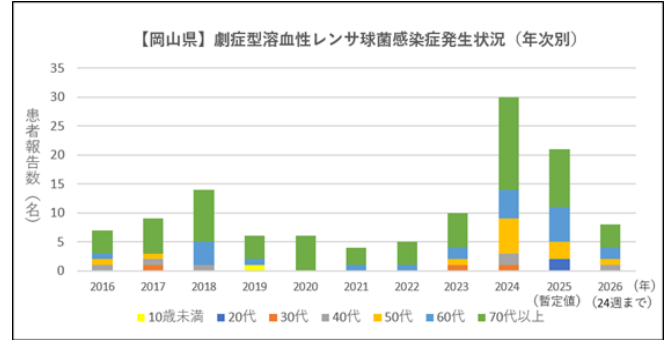
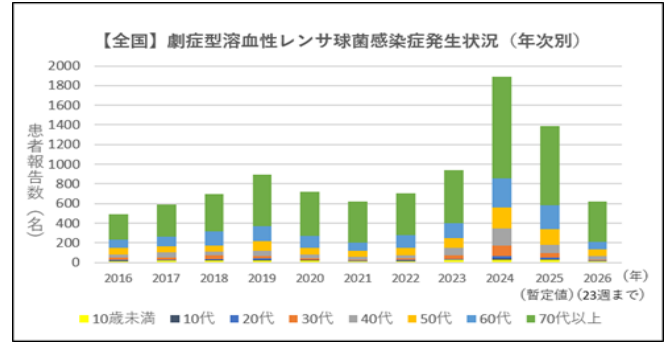
岡山県では第 24 週の報告はなく、2026 年の累計は 8 名となっています（2026 年 6 月 17 日時点）。

手指衛生や咳エチケット、怪我をした際の清潔な処置等に努め、発熱、咽頭痛や創部の発赤、腫脹、痛みなどの症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（厚生労働省）](#)

[劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（国立健康危機管理研究機構）](#)



◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

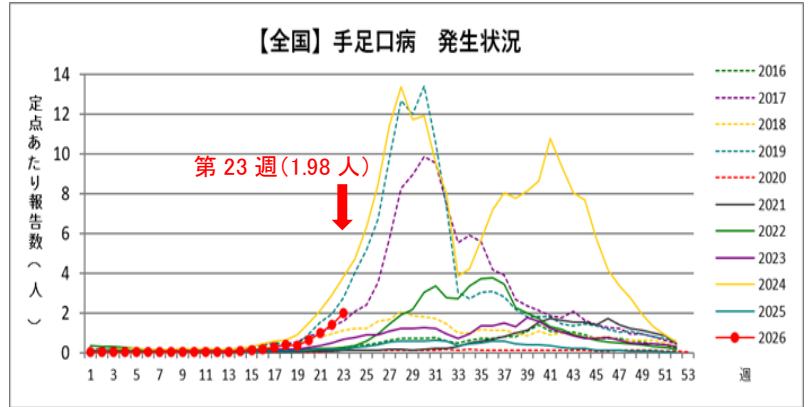
[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

今週の注目感染症②

★手足口病

●感染経路および症状

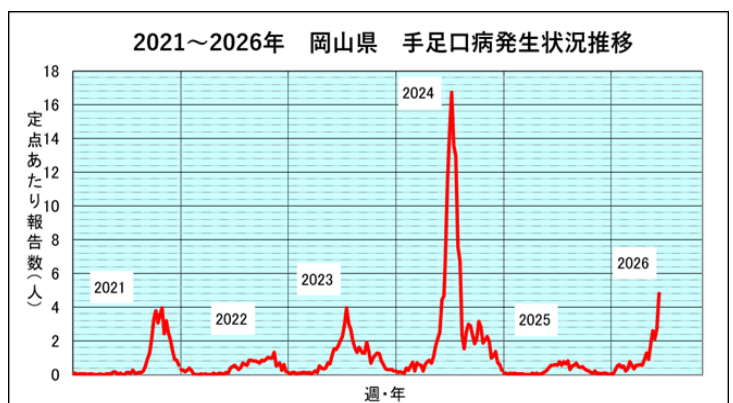
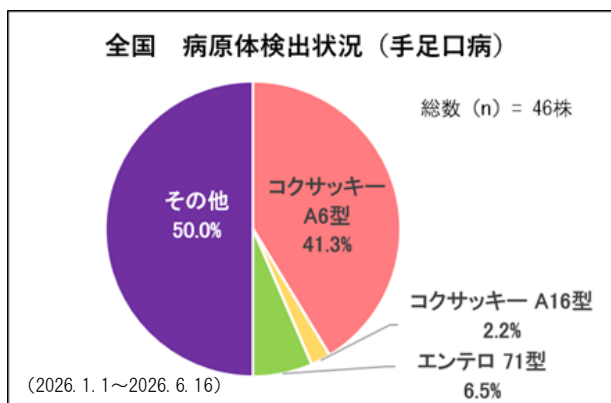
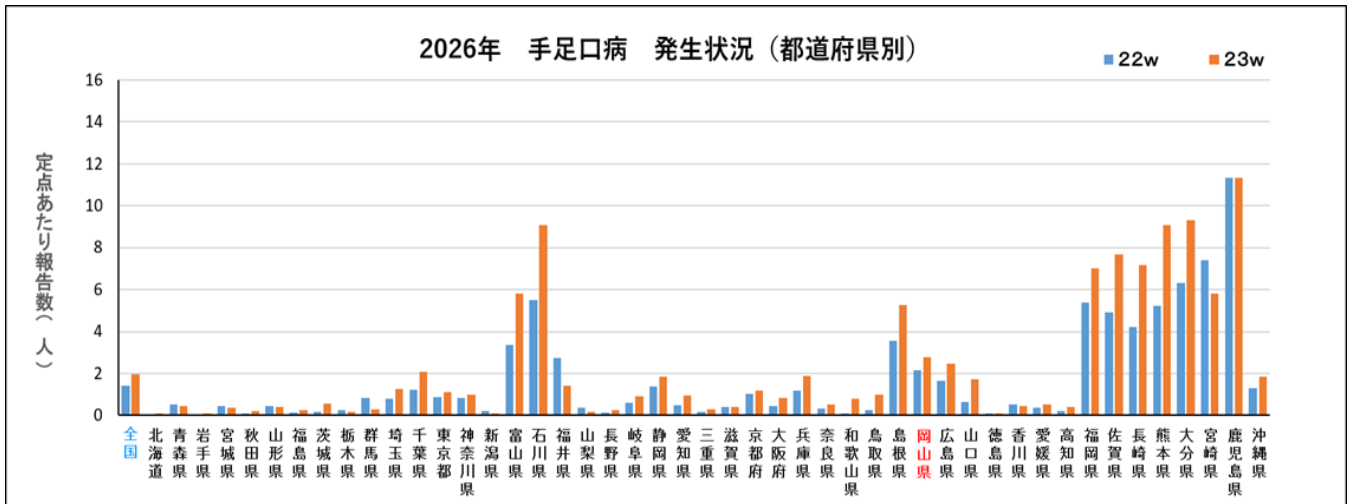
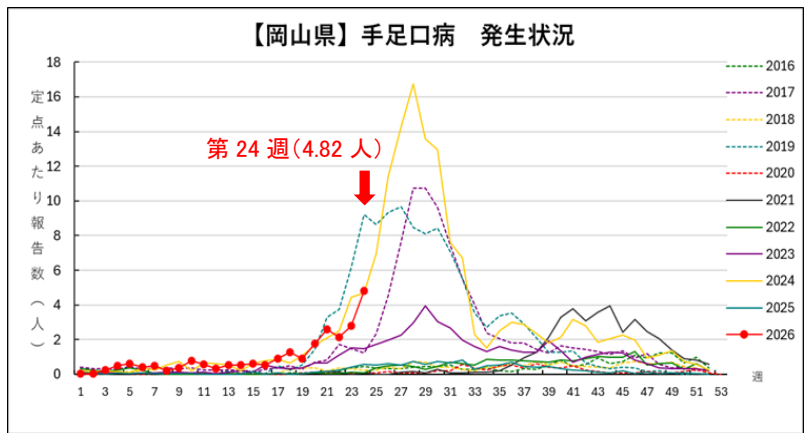
手足口病は、夏季に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。飛沫感染や接触感染、糞口感染（便中に排泄されたウイルスが手指などを介して口に入る）などによって感染します。3～5日の潜伏期間の後、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現します。発熱は約1/3に見られますが、一般に軽度です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎や急性弛緩性麻痺などを起こすことがあります。なお、2026年は全国的にコクサッキーウイルスA6型の検出が多くなっています。



●発生状況

全国の第23週の定点あたり報告数は、第22週から増加しました（1.41 → 1.98人）。都道府県別では、鹿児島県（11.35人）、大分県（9.31人）、熊本県（9.09人）の順に多くなっています。

岡山県では、第24週に県全体で135名（定点あたり4.82人）の報告があり、地域別では、備中地域（10.67人）、真庭地域（8.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、第24週までで0～3歳が93%を占めています。



●治療および予防法

治療はなく、対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくいいため、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、高熱が出る、おう吐する、頭を痛がる、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。有効なワクチンはないので、患者との濃厚な接触を避け、**せっけんや流水による手洗い**を励行し、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2~4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [手足口病（厚生労働省）](#)

[手足口病（国立健康危機管理研究機構）](#)

国内での麻しんの報告数が増えています

2023年以降「麻しん（はしか）」の世界的な流行が続いており、海外からの輸入リスクが高まっています。その影響で、国内の報告数も増加（前年同時期比3.9倍（2026年6月10日時点））しており、引き続き注意が必要な状況です。

発生動向

- ・国内の患者は10-20代を中心にみられ、医療機関や学校、公共交通機関など、人が集まる場所での感染も確認されています。
- ・10-20代の患者では、2回のワクチン接種が済んでいない方や接種歴不明の方が約半数を占めていました。

お願いしたいこと

- ・麻しんワクチンの2回接種が確認できない場合は、医療機関にご相談ください。
- ・麻しんの流行がみられる国や地域に渡航する方は、接種歴を確認し、2回接種が確認できない場合は、渡航前の接種を検討ください。
- ・発熱、発しん、せき、鼻水、結膜充血など、麻しんが疑われる症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診し、渡航歴や接触歴があればお伝えください。

[麻しん（はしか）（厚生労働省）](#)

海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

[海外へ渡航される方へ](#)

[海外から帰国された方へ](#)



保健所別報告患者数 2026年 第24週(定点把握)

(2026/06/08～2026/06/14)

2026年6月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.26	11	0.61	1	0.08	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
COVID-19	25	0.50	2	0.11	7	0.58	-	-	1	0.20	2	0.50	6	3.00	7	1.40
急性呼吸器感染症	2298	45.96	978	54.33	492	41.00	188	47.00	415	83.00	110	27.50	32	16.00	83	16.60
RSウイルス感染症	2	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.67
咽頭結膜熱	6	0.21	2	0.20	-	-	1	0.50	3	1.00	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	82	2.93	45	4.50	14	2.00	12	6.00	6	2.00	1	0.50	2	2.00	2	0.67
感染性胃腸炎	112	4.00	75	7.50	10	1.43	5	2.50	13	4.33	5	2.50	-	-	4	1.33
水痘	13	0.46	12	1.20	1	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	135	4.82	47	4.70	31	4.43	7	3.50	32	10.67	4	2.00	8	8.00	6	2.00
伝染性紅斑	3	0.11	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.67
突発性発しん	5	0.18	2	0.20	3	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	32	1.14	9	0.90	4	0.57	5	2.50	11	3.67	-	-	2	2.00	1	0.33
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2026年 第24週(発生レベル設定疾患)

(2026/06/08~2026/06/14)

2026年6月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.26	11	0.61	1	0.08	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
咽頭結膜熱	6	0.21	2	0.20	-	-	1	0.50	3	1.00	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	82	2.93	45	4.50	14	2.00	12	6.00	6	2.00	1	0.50	2	2.00	2	0.67
感染性胃腸炎	112	4.00	75	7.50	10	1.43	5	2.50	13	4.33	5	2.50	-	-	4	1.33
水痘	13	0.46	12	1.20	1	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	135	4.82	47	4.70	31	4.43	7	3.50	32	10.67	4	2.00	8	8.00	6	2.00
伝染性紅斑	3	0.11	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.67
ヘルパンギーナ	32	1.14	9	0.90	4	0.57	5	2.50	11	3.67	-	-	2	2.00	1	0.33
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2026年 第24週 2026/06/08～2026/06/14)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	13	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	10	-	-	2	-	-	-	-	-	
COVID-19	25	-	1	1	-	3	2	1	-	-	1	2	3	1	1	3	4	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2298	231	1226	381	147	36	48	53	33	26	27	49	41

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	6	-	1	1	-	1	-	1	1	-	1	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	82	-	-	-	4	8	11	10	9	7	7	4	20	2	
感染性胃腸炎	112	1	10	15	8	13	10	9	7	6	5	5	12	3	8
水痘	13	1	-	1	-	2	-	-	1	3	-	2	3	-	-
手足口病	135	5	15	64	35	11	3	1	-	-	-	1	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	
突発性発しん	5	-	-	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	32	-	1	11	10	6	3	-	1	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症 (ARI)	2,298	45.96	978	54.33	492	41.00	188	47.00	415	83.00	110	27.50	32	16.00	83	16.60

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
急性呼吸器感染症 (ARI)	2,298	231	1,226	381	147	36	48	53	33	26	27	49	41

(- : 0)

